

令和7年度学校経営自己評価（教職員）		
（4：できている 3：どちらかといえばできている 2：どちらかといえばできていない 1：できていない）		
取組の重点	観中魂を誇りに ～Be the Player!!～	
	評価項目	評価
取組の成果と課題（自由記述）		
【授業改善・確かな学力づくり】		
○「さぬきの教員授業づくりの三訓」を踏まえた授業実践 ① 学びの質を高め、わかる授業づくり ・教師が教え込む授業と生徒どうしが学び合う授業の計画的な実践 ・学びを深め、つながるICT活用の工夫	3.50	・教え込む授業（知識技能の習得）と学び合う授業（思考判断表現）を交互にバランスを意識してカリキュラムを組んだ。 ・ICT活用の工夫については、昨年度に比べ実践が積み重なってきたと感じる。 ・生徒に相互評価させることで学び合いを促しているが、それ以外の活動でも効果的な学び合いの場面を捻出するのが課題である。
② 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 ・個別最適な学びやユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業実践	3.10	・教室の前面への掲示、チョークの色、ワークシートのフォント等、UDについては意識して気を配っている。 ・個別最適な学びを実現させるのが課題である。 ・SCや学校全体で共有しながら、適切な教育実践を目指すことができた。 ・特別支援教育部会を中心に、生徒一人一人にあった教育の実践が行われている。
③ 学び続ける基礎を培う学習良習慣の育成 ・学習計画の作成とやり抜く指導 ・振り返り等による自己調整能力の育成	3.05	・定期テストなどに向けて、毎回細かい学習計画を立てさせて、計画的な学習実践ができています。 ・生徒が自分で学習を計画し、やり抜く力はない生徒が多い。 ・単元レベルでのカリキュラムデザインは細かく設定したが、年間レベルではできていない。
【道徳教育及び人権・同和教育の充実】		
○「道徳の日」「人権の日」を大切にした効果的な指導の展開 ①道徳科を要にした道徳教育の充実 ・質的充実を目指した協働体制による道徳科の授業づくり ・生徒が自らの成長を実感できる評価の工夫	3.55	・道徳通信や人権だよりを用いながら、生徒が人権感覚等について考える時間が増えて良かった。 ・道徳の日・人権の日を重んじて扱っている先生方の雰囲気がある。 ・副担任によるローテーション道徳も実施できた。担任の負担軽減にもつながり、効果的に授業実践ができた。
② 人権尊重の精神と実践力を培う人権・同和教育の充実 ・観音寺市教材「輝き」の授業実践 ・互いに認め合い支え合うなかま作り	3.75	・人権・同和教育部会が中心となり、学年団ごとに観音寺市教材の「輝き」の授業実践が行われた。 ・教材について検討する時間がしっかりと確保できた。 ・細かい配慮も含め、自分事として考えることができる手立てを模索できている
③ 夢や目標を持たせるキャリア教育の推進	3.40	・早い段階から進路学習を行うことができた。また、3年間の見通しをもって系統性のあるキャリア教育を進めることができた。 ・地域の方のお話を聞ける機会があるのが良かった。 ・地域の方に出席授業に来ていただいたことは、大変ありがたかった。 ・進路指導をもっと充実させたい。
【生徒指導・不登校対策の充実】		
○意図的なリーダー養成及び多様な活躍の場の設定 ①自己指導能力を育む生徒指導の推進 ・自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場の意図的かつ計画的な設定 ・達成感や成就感を味わえる活動の工夫	3.55	・生徒の自己肯定感を向上させるような取り組みや活動を学校全体で行うことができた。 ・リーダー養成の場が限られているので、たくさんのチャンスを仕掛けたい。 ・自己決定の場を増やせるように工夫が必要。 ・各委員会の取組を中心として、生徒の中に自浄作用が生まれるように働きかけている。
② 問題行動や不登校等に組織的に対応する校内体制の整備 ・「さぬきの教員かかわりの三訓」を踏まえた学年団、教職員集団づくり ・不登校傾向生徒への支援体制の充実	3.80	・問題行動が起きたとき、マニュアルをもとに粘り強く対応できていると思う。保護者との連携もよくしていると思う。 ・一週間に一度、不登校支援部会を中心に、情報交換などを密にして、不登校生徒に対する支援体制が整っている。 ・全教職員が共通理解・共通歩調のもと、一体となって問題解決に取り組んでいる。
③ 関係機関等との連携の日常化 ・教育支援教室、市子育て支援化等	3.35	・関係機関と適切に連携できていた。
【心身の成長を促す計画的な指導・支援】		
○子供のウェルビーイングの維持、向上の基盤となる取組みの充実 ① 心身を整える ・全教職員による日常的健康観察 ・ネット・ゲーム依存予防対策	3.20	・管理職をはじめ、生徒も教職員も学校生活を送りやすい環境であった。 ・健康観察は日常的に行っているものの、家庭でのネットやゲームの使用時間とそこへの指導はあまりできていない。
② 食育の推進 ・栄養教諭を核とした指導の充実	3.20	・栄養教諭や給食主任を中心に食育を推進できている。
③ 部活動の充実 ・目標に向かって自主的継続的に活動、技能・体力・マナー・耐性の向上 ・部活動ガイドラインに基づく練習時間及び休養日の設定	3.55	・ほとんどの部活動は、部活動ガイドラインに基づいた練習ができていると思う。 ・どの部活動も目標に向かって取り組んでいたと思う。全教職員が指導に当たっている。主・副で協力して指導していると思う。 ・ガイドラインを遵守した練習時間および休養日を設定している。 ・折に触れてマナーの指導もしているが、もう少し効果的に行えれば…。
【チーム学校・働き方改革・地域学校協働活動】		
①チームとしての学校及び教職員の働き方改革の推進、適切な情報発信	3.60	・リーバーを活用した各種お知らせや学校行事等の配信は効果的だった。 ・以前よりも働き方改革が進んだように感じるが、学期末等の多忙な時機の時間外在校等時間には依然として課題が残る。
②学校運営協議会、PTA等による学校課題解決のための地域学校協働活動の創造	3.30	・学校と地域がめざす生徒像を共有し、協働することが求められる。